

安心と信頼、良質なてんかん・神経の包括医療

静岡てんかん・神経医療センター情報誌

平成28年 冬 第46号

あかり

A K A R I

看護師さんを
募集しています

謹賀新年	1
第2回静岡市認知症疾患医療センター 市民公開講座が行われました	2
麻機遊水地フェスタ/第69回国立病院総合医学学会に参加して	3
「病院フェア」を開催しました/職場紹介～医療福祉相談室～	4
国立病院総合医学会でポスター賞を受賞	5
『風邪予防に役立つ食事について』/セミナーと研修	6
外来再診の診療体制/医療連携室	7
はじめて当院を受診される方へ/当院へのアクセス/本	8

謹賀新年

診療部長 小尾 智一

新年あけましておめでとうございます。このように新年を迎えられるのはとても喜ばしいことです。これからも良い新年を迎えられるように今年は何を目標にしようかな、とお考えの方も多いと思います。やはり、長命で健やかな生活を目指そうとする方々が多いのではないかと推察します。日本人の平均寿命が男性は79.6歳、女性は86.3歳と世界でも長いことをご存知と思います。でも、日常生活に制限のない期間はもっと重要で、これを健康寿命といいます。現在は、男性が70.4歳、女性が73.6歳です。これからは、この健康寿命を伸ばしていく必要

がありますが、何に注意したら良いかというと、脳卒中、認知症、衰弱・骨折などがあげられています。脳卒中は生活習慣病によって動脈硬化が進むと発症の危険因子になります。また、最近では認知症も生活習慣病を治療することで予防効果があると言われるようになりました。生活習慣病には糖尿病、高血圧、脂質異常症などがありますが、あせって運動や食事でききなり高い目標を目指す途中嫌になってしまいます。最初は、椅子に座ってでも良いですから一日10分以上の運動をおこなう、毎日一回は野菜を食べる、定期的に血圧や体重をチェックする、何をいつするのかメモをする、趣味や仲良

しグループで楽しむなどを心がけましょう。そうすると知らず知らずのうちに頭や体の適度な運動になり、食事のバランスも良くなります。ところでお正月ですからお酒はどうかという方もいらっしゃるでしょう。お酒の適量は1日量でアルコール20g程度が適量とされ、日本酒は

1合、ビール中瓶1本、ワイン2杯、ウイスキーダブル1杯がこれに相当します。喫煙は生活習慣病の危険因子ですから勧められません。最後に、静岡県の健康寿命は男性が全国2位、女性が全国1位であると申し添えます。本年もよろしく願い申し上げます。

第2回静岡市認知症疾患医療センター市民公開講座が行われました

医療福祉相談室 堀 友輔

平成27年11月8日(日)にグランシップにて「第2回静岡市認知症疾患医療センター市民公開講座」が行われました。「認知症の早期発見とケア」をテーマに一般市民153名の参加者がありました。雨天で足元の悪い中にもかかわらず多くの方にご参加いただきました。

講義内容は、小尾智一センター長による①「認知症の予防」、春名令子副作業療法士長による②「認知症の予防体操」、国立長寿医療研究センター予防老年学研究部長の島田裕之先生による③「認知症の進行抑制」、の講義3題が約2時間半にわたって行われました。参加者は、メモをとるなど熱心に聴講され、積極的に体操に取り組んでお

られる姿が見受けられました。

ご協力いただいた



アンケート結果に「認知症は食生活や運動など生活習慣が重要である事がわかった」「手足を動かすことで脳の活性化につながり、楽しんでやることの大切さがわかった」「NHKでよく知っている先生の講演を聴く事ができて良かった」など、認知症に対する市民の関心の高さが窺えました。

その他のご意見として「認知症の対応方法、抗認知症薬等についても詳しく話を聴きたかった」など今後の運営にもご指摘をいただいた点などを検討しつつ、皆様のお役に立てる市民公開講座を継続していきたいと考えております。



看護師さんを募集しています!

①常勤職員：病棟勤務 夜勤有り ②非常勤職員（外来、通所事業、病棟）

経験の少ない方、育児等でブランクのある方でも心配はご無用です。「じっくり患者様と関わりたい」「ゆとりのある看護をしたい」とお考えの方、ぜひ当院で働いてみませんか？相談、見学等随時お受けしております。お気軽に看護部長室までご連絡ください。

TEL ● 054-245-5446

E-mail ● kango-bu@shizuokamind.org

麻機遊水地フェスタ

庶務係長 中神 基充

平成27年10月24日(土)「第3回 麻機遊水地フェスタ」(巴川流域麻機遊水地自然再生協議会主催)が静岡市葵区で開かれました。静岡てんかん・神経医療センターはこの麻機遊水地に接しており、今回が2回目の参加になります。この日は、麻機遊水地を中心に、「第4回 里山フェスタ2015 in 麻機遊水地」「静岡ヘリポート祭り」が同時に開催され、ウォークラリーなどさまざまな催しや展示、出店が行われました。

当医療センターは、「救護所」、「ヨーヨーつり&金魚すくい」を担当し、小さな子どもたちに大好評でした。また、病院駐車場には、静岡トヨペットの車いす対応車をはじめ、電動車いす、倒れない自転車など、障害や運動機能にあわせたさまざまな車が展示・試乗されていました。

この麻機遊水地は多数の野鳥が訪れ、ヘラブナ釣りの名所でもあることから、日本で2番目に自然再生協議会が設置され、活用方法が検討されています。当院も療養環境の改善を目的に協議会の会員となり、病気や障害のある方と自然の関わりを計画に盛り込むことを要望しています。

てんかんの
ある方は、発
作が止まっ
たとしても
必ずしも就

職できるわけではありません。てんかん
は発作だけでなく種々の障害をもたらすことがありま
す。当院は麻機遊水地の活用方法で「静岡市医
療・福祉特区(ふじのくに福祉バレー)構想」と銘
打ち、ドイツにある世界最大規模のてんかんセンター
「ベートルてんかんセンター」を習い、住民と障害
のある方が一体となった街づくりを提案しています。

希少動植物の保護、福祉園芸・農園の運営、
A型作業所とカフェの運営とその場を利用した職
業体験・訓練、イベント開催などを通じて、障害の
ある方や入院中の患者さん、地域住民、企業が
協力して実現していきたいと考えています。いずれ
は近隣の流通センター内の企業で障害のある方が
職業体験や実習をし、雇用され社会復帰ができる
ようになる、そのような地区に発展することを願って
います。



第69回国立病院総合医学学会に参加して

療育指導室 堀 麻由乃

平成27年10月2日、3日に札幌で第69回国立病院総合医学学会が開催され、私も参加させていただきました。演題は、「重症心身障害児・者病棟における行事運営の改善に向けた取り組み～行事マニュアル作成を通じた考察～」です。重症心身障害児・者病棟での行事は、これまで様々な事情に対応すべく、試行錯誤の中で変更・実施してきました。様々な情報を共有し、行事をよりスムーズに運営していければとの思いから、行事マニュアルを作成・検討し、それによる改善点などをまとめ今回発表させていただきました。発表は、少し緊張しましたが、うれしい



ことにベストポスター賞(賞品は白い恋人)をいただきました。発表する前は、本当にこの内容で良いのか不安に思うこともありましたが、ポスターに興味をもってくれる方がいたり、多くの方が発表を聞いてくださったことで、自分たちのやってきたことが少しでも意義のあるものかなと感じることもできました。また、他の病院での様々な取り組みについての発表も参考になることが多く、学会がとても有意義な時間となりました。今後も、今回の学会発表で得たことを生かし、患者様にとってより良いサービスの提供ができるよう努力していきたいと思えます。

「病院フェア」を開催しました

副看護部長 池田 雅子



「病院フェア」は、国立療養所静岡東病院と国立静岡病院が平成13年10月に統合し、『静岡神経医療センター』になったことを記念して、毎年10月に開催をしているイベントです。今年の秋は、9月の案山子コンテストや10月24日の遊水地フェスタなど、麻機での地域活動がぐんと増え、この時期のフェアの開催は危ぶまれていました。しかし、1か月遅れではありますが、今年も、去る11月11日 水曜日、恒例の「病院フェア」を開催することができました。

「健康チェック」のコーナーでは、看護師や臨床検査技師が、血圧測定のほか、骨密度や体組成などの各種身体測定を行い、健康相談



を受け付けました。また、薬剤師・作業療法士・管理栄養士などの専門家による窓口にも、それぞれたくさんの方の相談が寄せられました。おやつにもなる栄養補助食品や、当院のクリアーホルダーやウエットティッシュなどの無料配布の品も、たくさんの方にお持ち帰りいただけました。また、体験コーナーでは、子供連れのお母さんから、「心臓マッサージを本当にやっているところを、子供に見せて



ほしい」と要望があり、AED(自動体外式除細動器)を装着したダミー人形に心臓マッサージを行う場面をご覧いただき、お子さんから「がんばれ〜!」と激励を受ける場面もありました。

来年は、院内・院外の各種イベントを整理して、さらに地域の皆さんに親しんでいただける活動となるように、ただいま検討中です。また、来年も、多くの方々にお会いできれば幸いです。

職場紹介 ～医療福祉相談室～

Q. 医療福祉相談室ではどんな相談ができますか？

A. 療養に伴う経済、心理、社会的な不安や心配なことについてご相談をお受けしています。

例えば

- ・入院を勧められたが医療費の支払いが心配
- ・病気や障害のため、仕事に就けず、生活費のことが心配
- ・就学や学校生活で心配なことがある
- ・就職活動や仕事のことが心配
- ・退院後の生活をどうしていけばいいかわからない
- ・福祉等諸制度について知りたい などです。

Q. 相談したいことがあるのですが、どうしたらいいですか？

A. ご相談は基本は予約制となっています。主治医に希望を伝えていただくか、当院代表電話番号(054-245-5446)から医療福祉相談室宛てにご連絡ください。

国立病院
総合医学会で
ポスター賞を
受賞

神経内科疾患の多くは進行性であり症状の進行と共に身体機能に障害をきたす

ため、転倒転落のリスクが高くなります。しかし、転倒転落アセスメントシート・転倒転落事故防止計画表は十分に活用されず、個別の看護計画が立案できていないのが現状でした。そこで、意識調査を行い活用できていない原因を解明し、介入策を検討することを目的として研究に取り組みました。ポスターを作成したのは初めてのことであり、作成する方法を勉強することから始めました。以前作成したスライドを並べるだけでは上手いかず、1枚1枚のスライドを見直して1枚刷でポスターを作成することに挑戦しました。文字の大きさから配置、色使いなど様々なパターンで試した結果、グラフや表を上手く活用することができるようになり、視覚に効果的に訴えるポスターが作成できたためポスター賞を受賞できたと思います。自分達の研究を1枚のポスターにまとめることは苦労しましたが、出来上がった時には達成感がありました。今回検討した対策を実施した後、アセスメントシート・計画表の記入状況、評価実績、計画立案率を比較し、活用率の変化を調査していきたいと思っています。

転倒転落アセスメントシート・事故防止計画表
に対する意識調査

■ NHO 静岡てんかん・神経医療センター

○井口 勝貴 森 裕 佐野 織江 萩原 英幸 土半 伸子 井上 和世

I. 問題点と目的

- 神経難病、認知症の診断・治療を行っており、いずれも転倒転落のリスクが高い。
(平成25年度、当病棟において転倒16件、転落10件の報告)
- アセスメントシート・計画表は十分に活用されず、個別の看護計画の立案ができていない。
(平成26年5月以降入院患者、10月20日～11月20日在院患者 高リスク判定患者の計画立案率43%)
- 意識調査を行うことにより、活用できていない原因を解明し、介入策を検討する。

II. 方法

高リスク判定24名を対象

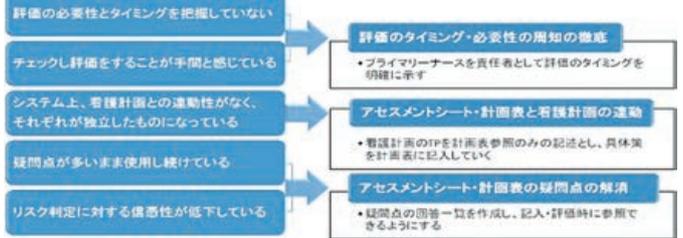
- ① アセスメントシート・計画表の記入状況を把握するためのアンケート調査
(評価できている、評価できていない、未回答の3項目形式で回答)
- ② アセスメントシート・計画表の活用率を調査
(平成26年5月以降入院患者、10月20日～11月20日在院患者)
- ③ アセスメントシート・計画表のわかりにくい箇所とその理由をアンケート調査
(7項目形式で回答)

III. 結果



アセスメントシートの項目	疑問点	計画表の項目	疑問点
過去入院中に転倒・転落したことがある	過去に自宅等で転倒したなども含むのか(4名)	具体的事例を用いながら説明する	事例の説明がない、大きな文字・絵図もない(2名)
心配心が強い、よく遠慮する 依存できない、自分でしないと気がすまない	入院時にアセスメントできるのかわからない(3名)	歩行補助器使用時は、患者の体格や姿勢に合わせた調整を行う	正しい高さとは?
足腰や筋力が弱くなっている 自力による歩行・昇降ができない 自立程度がわからない	完全なたきりの人も該当するの(4名)	使用薬剤毎の副作用、作用発現時間、作用持続、半減期等に合わせた観察を実施	作用時間、半減期など細かい判断は難しい
アセスメントシート項目外の疑問点、意見		計画表項目外の疑問点、意見	
単独高リスクとその他の違いがわからない(2名)		記入しにくい、チェック項目が多い	
リスク判定Aの人が転倒しているのか(3名)		理解を促すという項目は認知症患者には難しい(2名)	
転室時や転床患者でも評価する必要があるのか(2名)		看護計画とのリンクが必要ではないか(5名)	

IV. 考察と結論



Q. 相談するのに費用はかかりますか？

A. 費用のご負担はありません。

Q. 医療福祉相談室は病院のどこにありますか？

A. 正面玄関を入ってすぐのところを右に曲がったところです。

Q. この病院に受診を検討しているのですが、相談にのってもらえますか？

A. 医療福祉相談室では、初診前の患者様を対象に電話での初診前相談を行っております。

当院に受診を考えているけどその前にいろいろ聞きたいことがある、などありましたら、平日11:00～13:00の間に病院代表電話番号(054-245-5446)から医療福祉相談室宛てにご連絡ください。

相談してください!



『風邪予防に役立つ食事について』

栄養管理室 杉浦 真季

新しい年を迎え、寒さもいよいよ本番となり、「喉が痛い」「鼻水が出る」などの風邪の症状が出ている方も多いのではないかと思います。

風邪は、温かくなったり寒くなったりと気温の変動が激しい時に体温調節がうまくいかなくなったり体力が落ちたりするとひき易くなります。

【風邪予防4つのポイント】①手洗い・うがい ②十分な睡眠 ③適度な運動 ④バランスのとれた食事
【今回は4つ目のポイントである食事について簡単に紹介したいと思います。】

- ☆栄養バランス …… 1日3回決まった時間に食事をとる。毎食、主食・主菜・副菜を揃える。
- ☆ビタミンA …… 鼻や喉の粘膜を保護する(法蓮草・人参・カボチャ・うなぎ・チーズ・卵など)
- ☆ビタミンC …… 免疫力を高める(イチゴ・みかん・キウイ・ブロッコリー・じゃがいもなど)
- ☆ビタミンB1 …… 糖質をエネルギーに変える(豚肉・魚介類・大豆製品など)
- ☆身体を温める食品 …… ねぎ・ニラ・にんにく・玉ねぎ・唐辛子・生姜 ☆温かいメニュー …… スープ・鍋などの温かい汁物

▼ 風邪予防に役立つレシピを4つ紹介します ▼

1 トマト鍋

☆はごはんとチーズを入れてリゾットで

●材料(2人分)
 ・えび4尾 ・鶏もも100g ・トマト1個 ・エリンギ1本
 ・レタス半個 ・にんにく1かけ ・オリーブ油大さじ1 ・粉チーズ少々
 A(水カップ1 トマトジュースカップ1 コンソメ大さじ1)

★作り方 ……
 ①鍋でにんにくとオリーブ油を炒めたらAを注ぐ
 ②沸騰したら鶏肉を入れ15分煮る ③えびとエリンギを加える
 ④くし切りにしたトマトとレタスを加えて煮る
 ⑤粉チーズを振ってできあがり



2 豚とネギの塩鍋

☆はラーメンを加えてあっさり

●材料(2人分)
 ・豚肩ロース200g ・白ねぎ3本 ・油揚げ2枚
 A(水カップ2 酒大さじ1 塩小さじ1)

★作り方 ……
 ①鍋にAを入れひと煮立ちさせる
 ②1cmの細切りにした豚肉を加えて煮立ったらアクを取り除き、ネギと油揚げを加え弱火で5分煮たら出来上がり



3 豚汁

☆は好みで七味をかける

●材料(2人分)
 ・豚こま切れ100g ・サラダ油少々 ・里芋3個 ・人参1/3本
 ・ごぼう60g ・ネギ5cm ・出し汁カップ2 ・味噌大さじ2 ・七味少々

★作り方 ……
 ①サラダ油で豚肉を炒める
 ②出し汁を加え、里芋・人参・ごぼうを加えて煮る
 ③火が通ったらネギを加える ④みそを加えてできあがり



4 豆腐千枚鍋

☆はごはんとお卵を加えてキムチ雑炊

●材料(2人分)
 ・豆腐半丁 ・タラ1切れ ・白菜キムチ80g ・ニラ1把 ・煮干し10g ・ごま油小さじ2
 A(すりおろしにんにく小さじ1/2 みそ小さじ2 コチュジャン小さじ2 しょうゆ小さじ2)

★作り方 ……
 ①煮干しをカップ2の水に1時間以上浸してから火にかける
 ②鍋でごま油を熱し、キムチを炒めたら①に入れ、アクを取り除く
 ③豆腐とタラを加え、煮立ったら再びアクを取り除き、煮る
 ④最後にニラを加えて煮たらできあがり



※上記レシピを紹介しましたが、その他の食材にも栄養素は含まれています。1日30品目の食材を目安に食べるようにしましょう。

セミナーと研修

当院ではさまざまな研修活動を行っています。セミナーのプログラムなど当院ホームページ「セミナーと研修」で紹介しています。

医師・医学生対象

小児てんかん学研修セミナー
 平成27年1月実施 参加40名

成人てんかん学研修セミナー
 平成27年8月実施 参加40名

冬は「小児」、夏は「成人」のてんかん診断・治療に関するセミナーです。

医療職・福祉職・教育職対象

てんかん専門職セミナー(成人てんかん)
 平成27年2月実施 参加54名

てんかん専門職セミナー(小児てんかん)
 平成27年8月実施 参加50名

冬は「成人てんかん」、夏は「小児てんかん」をテーマに開催しています。

看護師対象

てんかん看護セミナー
 平成27年10月実施 参加36名
 毎年10月頃開催しています。

脳波検査を行う臨床検査技師対象

臨床検査セミナー
 平成27年11月実施 参加16名

外来再診の診療体制

てんかん科

午前の診療時間は8:30~12:00 午後の診療時間は13:00~16:30

	月	火	水	木	金
第1診察室		山崎	中岡	山崎	白井直
第2診察室	久保田英			久保田英	
第3診察室	今井		井上		近藤
第4診察室		鳥取	日吉		日吉
第5診察室	池田仁	池田浩	池田浩	寺田清	寺田清
第6診察室	芳村			芳村	松平
第7診察室		荒木			山口
第8診察室		西田	高橋		
第9診察室	重松			大谷	大谷

神経内科

	月	火	水	木	金
第10診察室	午前 寺田達	小尾	小尾		小尾
	午後 小尾				
第11診察室	杉浦	杉浦	寺田達		馬場國尾内(第4)

特殊外来

転倒予防外来	随時	小尾
認知症疾患医療センター	月・水	寺田達・小尾
遺伝相談	随時	高橋、小尾
禁煙外来	随時	池田仁
ねむけ外来	月	寺田清

再来診療は予約制です。予約が出来ない場合は午前中にお越しください。

医療連携室のご案内

医療機関間のコミュニケーションを円滑に行なうために、医療連携室(予約センター)を設置しています。ご利用ください。(平日)

TEL ■ 054-246-4580(初診)

054-246-1065(再診)

FAX ■ 054-246-4607

予約センターの受付時間

● 9:00 ~ 12:30 ● 13:30 ~ 17:00

E-mail ■ renkei@shizuokamind.org

当院では、脳波、筋電図、誘発電位、脳磁図、終夜ポリグラフ、CT、MRI、SPECTなどの検査が可能です。共同利用も可能です。

上記、医療連携室にお問い合わせください。

広報誌編集委員会

編集人■

寺田 清人 高嶋 春美 鈴木 淑夫
 矢嶋 隆宏 佐倉 裕二 傍島 隆
 中神 基充 堀田 真子 高橋 輝
 春名 令子

発行■平成28年1月8日

国立病院機構

静岡てんかん・神経医療センター

〒420-8688 静岡市葵区漆山 886

TEL ■ 054-245-5446

FAX ■ 054-247-9781

URL ■ <http://www.shizuokamind.org>

E-mail ■ shizuoka@shizuokamind.org

はじめて当院を受診される方へ

◆ 診察は予約制になっています ◆

1 受診のための手続きは…

予約制は、ご本人・ご家族から当院医療連携室(054-246-4580)へ、あるいは主治医の先生から当院医療連携室へ申し込んでください。その際、ご本人の氏名・性別・生年月日・住所・電話・保護者氏名をお尋ねいたします。電話をいただきますと、その場で受診日を決め、折り返し当院からかわいい書類をお送りいたします。

2 セカンドオピニオンについて

セカンドオピニオンもお引き受けいたします。

3 紹介状について

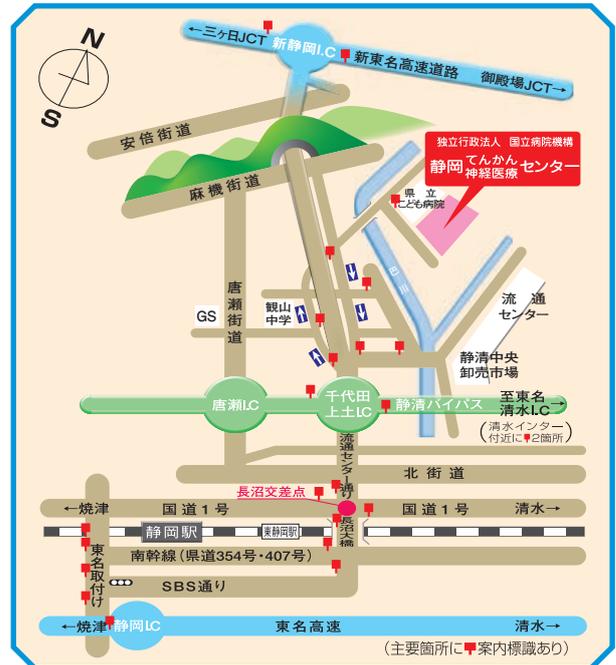
現在すでに病院へかかっておられる方は、主治医の紹介状があることが望ましいですが、なくても結構です。紹介状がない場合は別途費用(2,700円)がかかりますので、ご了解ください。病院からの資料もあれば望ましいですが、なくても結構です。

4 緊急を要する時は…

受診日は病状に応じてできるだけ対応いたしますので、緊急を要する時はその旨をご連絡ください。

当院へのアクセス access

バスをご利用の場合	● JR静岡駅前、北口バスターミナル5番線より静岡鉄道バスにて、こども病院線「67 こども病院・神経医療センター」行に乗車、終点の「静岡神経医療センター」で下車。全所要時間は約30分。片道料金は大人360円、小児180円。
タクシーをご利用の場合	● JR静岡駅前(北口)より乗車。所要時間は約20分。料金は2,500円程度。
お車の場合	東京方面から
	名古屋方面から
東京方面から	● 東名高速清水インターより、静清バイパスを静岡方面に向かい、千代田・上土出口から流通センター通りを北へ数分。所要約20分。 ● 御殿場JCTで新東名高速へ乗換。新東名高速新静岡ICより、案内板に従い直進。所要時間約7分。
名古屋方面から	● 東名高速静岡インターより、国道1号線を清水方面に向かい、長沼交差点を左折、流通センター通りを北へ数分。所要約30分。 ● 三ヶ日JCTで新東名高速へ乗換。新東名高速新静岡ICより、案内板に従い直進。所要時間約7分。



本 BOOK

● 抗てんかん薬ポケットブック(改訂第5版)

【日本てんかん協会、2014年】

禁忌、重大な副作用、重大な副作用疾患別症状、体内動態と主な副作用、相互作用、抗てんかん薬プロフィール、新規抗てんかん薬の開発状況、Q&A、識別コード(錠剤のみ)を掲載。

● 稀少難治てんかん診療マニュアル

～疾患の特徴と診断のポイント～

【診断と治療社、2014年】

稀少難治てんかんの特徴と診断のポイントから、検査、治療、予後まで詳しく概要をつかめるよう約3～4ページにポイントを絞った。発作時の脳波図、発作の鑑別フローチャート、鑑別疾患を比較した表をレイアウトし、視覚的に分かりやすく稀少難治てんかんを解説した。診断、治療のマニュアルの項目の冒頭には短く「ポイント」をまとめた。稀少難治てんかんにかかわる小児科医、神経内科医、脳神経外科医などに役立つ書。

● てんかん症候群(第5版)

～乳幼児・小児・青年期のてんかん学～

【中山出版、2014年】

てんかん学の「ブルーガイド」として世界的に普及している「Epileptic Syndromes(原書第5版)」の日本語翻訳版です。4版よりも10%以上ボリュームが増え、より詳しい内容になり、他では決して得られない極めて貴重なてんかん発作の動画付き。静岡てんかん・神経医療センターのスタッフが総力をあげて翻訳しています。

● てんかん専門医ガイドブック

～てんかんにかかわる医師のための基本知識～

【診断と治療社、2014年】

てんかん専門医試験を受験する医師のみならず、てんかんにかかわるすべての医師必携のガイドブック。概念や分類、病因、診断、検査、治療などの総論から、新生児から高齢者まで各年代別の重要なてんかんや遺伝子研究結果に基づく特殊てんかんの最新知識、外科治療などを解説した各論に続き、妊娠、運転、生活支援についても具体的に紹介。臨床てんかん学の内容をコンパクトにまとめた実践的な一冊。

てんかん情報センターのご案内

てんかんに関するさまざまな情報を集積したセンターが外来棟1階にあります。どうぞご利用ください。次の活動を行っています。

- 1 てんかんに関する書籍・雑誌・ビデオなどの閲覧・貸し出し(自己学習)
- 2 ホームページによる情報提供 <http://epilepsy-info.jp/>
- 3 てんかん協会との連携
- 4 医療などの相談(予定)